

一般社団法人 埼玉私保連



広報

No.152



世界中の子どもに 幸せが届きますように

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

第2回埼玉県私立保育園連盟

オンライン(リモート)研修会報告



日時…2022年

11月29日(火)

十三時三十分～十五時三十分
(十三時開場)

テーマ…「2歳児までの育ちを見直す ブラブラ期PART2」

講師…川田 学氏 北海道
大学大学院教育学研究院付属
子ども発達臨床研究センター
准教授

研究領域…発達心理学・保育学(保育所や幼稚園の園内研修等に関わるほか、札幌のNPO法人子育て応援かざぐるま・理事として、子育て支援の研修や保護者向け講座などを運営)

参加者 約90名

前回、川田先生のお話は、「2歳児の多面的な子どもの

理解(イヤイヤ期とブラブラ期)」でした。今回は「ブラブラ期PART2」として2歳児ブラブラ期を支える0歳からの育ちについて学びました。

初めに子どもとの関わりや子どもの姿をどう見るかを考える時に、自分の園ではなく、他の園の保育を知ることが大事なので、お互いの保育を見合うと良いこと。また、実際に見られなくても実践や記録を読むことで、自分の園と違う見方や考え方、手立てを知ることが出来ること。そして、毎日接している子どもから学ぶことが大事なので記録を取り、保育を振り返ることが大切であるということでした。保育の記録や実践の描き方にちよっとしたポイントをつかむと相手に伝わるとともに

自分の保育を見直すことができそう、記録を書く時には、園の事や子どもの事を知らない人を意識して記録すること。他の園の人に読んでもらった時にリアルに状況が浮かぶように書く為に、子どもの内面や感情を表現する時「うれしそう」とするより「ブランクをこぐことが出来そう」で毎日毎日やっていた。一週間かかって、やっとこげた。とした方が客観的に状況が分かるということ。子どもの内面をとらえ、気持ちや動いていくプロセスを客観的に書くことで子どもを捉える力がつくとのことのお話でした。

0歳からの育ちでは、まず「出来るようになる運動能力(タテの発達)」と能力の発達における子どもにとっての意味(ヨコの発達)」として、子ども

もの発達にはその後の成長を支える意味があるとのことでした。歩行出来るようになることで興味をもったこと、自ら近づき世界を広げ、新しい関係をつくっていくようになる。文字を覚えることは、新しいことを知ることであり、知識を豊かにすることはさらなる興味と意欲を引き出すので、興味を持った時に教えてあげることが大事とのことでした。

次に「0歳児の発達とその支援」ですが、泣いたときに誰かが来てくれる体験によって自分が誰に向かって泣けばいいかが分かるようになる。泣いて人を呼んで感情を伝えることを知っていく応答的な関係が、子どもの成長の基盤となるそうです。そして0歳の発達の中で大

事にしたいことは安心できる姿勢で心地よく過ごし、遊ぶことだそうです。座れないのに座らせると、余裕がないので手を動かさない為、他に興味がいなくなってしまう。

姿勢と運動発達に合わせて関わりや環境を変えていくことが大事だそうです。運動発達は身体を中心から末梢へ、粗大運動から微細運動へ、頭部から尾部（おしり）へと発達

していく。また、姿勢が安定することで手指など微細運動が可能となる。このため、首が座る前に立て抱きにするのとで頸椎などに負担がかかり、肩こりの子どもが多くなっている。また、スリングは屈曲が強すぎないように注意が必要であり、首が座るまでは横抱きを中心とした方が良いでしょう。子どもの筋肉のこわばりをとる方法として、顔のマッサージやわらべうた遊びなどのふれあい遊びが、身体のリラックスを促すとのことでした。

また、体力には行動体力と防衛体力（自律神経）があり

暑さ寒さなど自分の身体にとつていい状態をつくっていくため、毎日新鮮な空気を吸うことが自律神経を発達させるのに大事とのことでした。

言葉の発達は、身体の安定のもと、物との二項関係と人との二項関係をへて、自分・もの・相手との三項関係を築くことで獲得していくとのことお話ししました。

次に「1〜2歳児の発達とその支援」についてですが、1歳半頃の子どもは、物に名前があることを知り、探索を共感し共有していくことが大事で、世界が広がり行動の修正力がついていく。子どもが自分で気が付き自分で修正できるように関わっていくことが大事だそうです。

2歳半頃には、認知が高まり、イメージの世界が広まり深まっていき、筋道をイメージする力がついてきて、自ら見通しを持って行動するようになる。間違えて困らないように先取りせず、間違えをしつかり失敗させることが次につながるとのこと。この

時失敗させないように先回りしているとならなかつたことを人のせいにし、自分の間違えに気が付かないでしまうとのことでした。

次に実践の事例から、食事になると眠くなってしまう子が、散歩（活動）の中で気が付いたことに保育士が共感してくれたことで、食事中に眠

くならなかつたとの体験から、『眠くなる姿を体力の問題だけとみていたが、本当は子どももの楽しいと思える取り組みがなく気持ちが満たされず、次に向かう気持ちもないまま食事の時間を迎え眠るといいうことに繋がっていたのではなか』と振り返ったとの事です。充実した楽しい体験が出来るということが大事だと学びました。

2歳児の独特な世界観を持つている子の実践からは、食事の時間耳をふさいでいることが多かったが、テラスで食べた時、耳をふさぐことなく食べられた。そのことからテラスと部屋のどちらで食べるか、自由に選んで食事できる

ようにした。日がたつにつれ部屋で食べる子が多くなつていった。その中でずっと外で食べていた2人の子も一緒に部屋で食べられるようになったとのこと。また、この

子は昼寝を嫌がっていたが、クラスで段ボールを集めて家を作って遊んでいたところ、段ボールの家は好きで中に入って遊び、昼寝した。その後クラスの子も、段ボールでも部屋でも自由に選んで昼寝をした。その子にとって遊んでいた段ボールはリラックスできる環境になったのではないかと話もしていました。

実践から、遊びの連続性の中で生活力をつけていく。生活課題を解決していくためにどうするかを考えていくのもおとなの役割であり、その子の必要をみんなとの遊びを通して満たしていくことが大事であると学びました。

事前の質問者からの内容については、後日川田先生から詳しく教えて頂きました。

（研修部）

青年会議研修報告

保育における食育実践の質を高める 〜毎日の食事を中心とした食育の発展〜

講師…上越教育大学大学院教授
野口孝則先生

毎年実施してきた給食従事者向けの研修をコロナ禍ではありましたが、令和5年1月13日に対面式で実施することができました。久しぶりの対面式ということもあり、どこか緊張気味な雰囲気の中で研修がスタートしました。開始早々、講師の野口先生のパワフルな講義に会場は緊張から学ぶモードへ変化していききました。

「食へることがすでに食育」という根底を基に研修は進んでいきます。

2005年に食育基本法が施行され「生きる上での基本」として制定されました。食育はあらゆる世代に必要な健全な心と身体を培い豊かな人間性を育ていく基本となるものとして考えられており、食育は特別なも



のではなく、日々の家庭での食事や日常保育の中で行われている給食そのものであり、特別なことと捉える必要はないとのこと、会場の皆さんが大きく頷いていたのが印象的でした。

また保育現場では、午前中の十分な活動で「お腹すいたね」「いい匂いがしてきたね」という声掛けなどを保育士が行うことで、子どもの食への関心は大きく変化することをお話しされていました。

「お腹すいた↓おいしい↓もつと食べたい」に繋げていけるようにするには、「食事が楽しい時間」にすることが大切であ



ることをあらためて認識する時間になったと思います。保育従事者が食べて貰いたいとの思いで、ついつい言葉がきつくなつてしまつたり、その子の隣でいつもプレッシャーをかけるようなことにならないように注意しなければならぬとも話されていきました。

「頑張つて食べようね!」の声掛けは、子どもにとって良いのでしょうか?

「食事は頑張つて食べることなのか?」と問いかげられた時は、研修参加者の皆さんが心の中で何かを感じた瞬間だったのではないのでしょうか。「できたことを褒める食育」「その子にとって少しの分量でも美味しく食べたことを大切にする」「怒られながら食べるご飯は美味しくない」を保育者は覚えておかななくてはいけないとも話されていきました。

食育活動Ⅱ行事食・イベント型給食と捉えるだけではなく、保育の中の行事(野菜作り・芋ほり・田植え・稲刈り)などは、何を目的として取り組むか、子ども達にどのような変化(気づき)がおこり、その後どのような

に展開されるかを給食従事者だけでなく、保育者が共有しながら評価検討を積み重ねることが重要である。

また食の計画についても給食従事者だけが食育計画を策定するのではなく保育に関わるすべての人が関われる体制が必要になり、保育園での「毎日の食事の時間」こそが「保育の食育」であり「保育の質」を高める秘訣であると言われていました。

実は今回の研修会は給食従事者だけではなく、保育士、管理職の先生方の参加のお誘いをしていました。

野口先生はお話の中で「保育者の子どもへの声掛け一つで食事は大きく変わる」と幾度も伝えられていました。

次回は保育士の先生にもぜひご参加いただき、園全体での食育活動を考えていただける機会になればと思っています。短い時間の研修会ではありましたが、毎日の食事で子どものお腹も満たすことが学べた研修会となりました。ご参加ありがとうございました。

(青年会議部長 多田郁子)



【北風小僧の寒太郎】



1. きた かぜー - こぞう の かん た ろう
 - こと し も - ま ち ま で やっ て き た
 - ヒュ - ン - ヒュ - ン - ヒュ ル ル - ン
 ル - ン ル - ン - ふ ゆ で - ご ざ ん - す
 ヒュ ル ル ル ル ル - ン - 2. き た



寒の時期を過ぎましたが、北風小僧の寒太郎はまだ近くにいるようです。楽しく歌って寒さを吹き飛ばしましょう。

♪歌詞のポイント

寒い冬に冷たい風が吹くと心も体も硬くなってしまうですが、そんな寒さも吹き飛ばしてしまおうようなユニモアのある曲ですね。この曲の作詞者は長野県出身ということですので、雪深い地域の寒の時期の様子が伝わってきます。

歌詞には前回の【虫の声】と同様にオノマトペが使われています。北風が吹いている様子をヒューンと表し、そこへ寒太郎がやって来るとヒュルルンへと変化します。寒太郎が北風に乗って現れると、どんよりした暗い空も少し明るくなるよう

な雰囲気になりますね。嬉しいことや楽しいことがある時、「ルンルン気分になる」ということがあります。ここで使われている「ヒュルルン」という表現は、冷たい北風と明るい気分にしてくれる寒太郎の様子が合わさっているように思われます。

この曲のヒューンとヒュルルンの部分はカタカナの歌詞を歌うのではなく、風そのものとしてとらえて、自分の感じた風を表現できると良いですね。歌い方の工夫として、以下のことも参考になさってみてください。

・「ヒューン」の部分は北風の勢いを感じます。息のスピードで、寒さの度合いや風の強さの伝わり方も変わります。口の形は口笛を吹くようにして、

はつきりと少し強めに発音すると良いでしょう。
・ヒュルルンルンルンルンルンは、寒太郎が空から地上に舞い降りてくる様子を表現しているように思えます。北風は冷たいけれど、1年ぶりに寒太郎に会えた喜びを感じて弾んだ気持ちで歌いましょう。

♪リズムのポイント

この曲には終始、付点のリズムが使われています。軽やかで、どこからともなく風に乗ってとんでくる寒太郎そのものを表しているのかもしれない。この曲は4分の4拍子ですが、1小節を「1234」と考えるのではなく、「1と2と」と2拍子で感じてみましょう。「1と2と」の1は左、2は右というように、体を左右に動かしながら歌うとリズムに乗りやすくなります。風が吹いている様子も表現でき、また体も解放されて声も出しやすくなると思います。

♪メロディーのポイント

この曲は大きく4つの部分に分かれています。低い音から始まり、風の音を表す部分で一番高くなり、また低い音に戻ります。それぞれの歌い出しの音を見てみましょう。

① 北風小僧の寒太郎（ド ドレレ↑）

② 今年も町までやって来た（ファファソソ↑）

③ ヒュルルンヒュルルンヒュルルン（ドレドレ↑）

④ ふゆでござんす ヒュルルルルルン（ドレラ↓）

音がだんだん上がっていくのがわかると思います。最高音は③のルンのルの音です。寒太郎が空の高い所にいるのを想像してみましよう。「ふゆでーござんす ヒュルルルルルン」この部分は音が下降していきます。寒太郎がだんだん地上に舞い降りてくる様子が見えるようですね。寒太郎の言葉

なので、堂々としっかりと歌いましょう。

♪伴奏のポイント

いろいろな楽譜があると思いますが、この曲は前奏に付点のリズムを入れると曲の雰囲気が出ますね。歌う方もリズムに乗って歌いやすくなるでしょう。

4拍子ですが、大きな2拍子を感じて弾きましょう。左手がこのように4分音符が4つ「♪♪♪♪」あつたとしたら、1拍目と3拍目は少し重みを感じて、2拍目と4拍目は軽く弾くと良いでしょう。4つの音をすべて同じ重さで弾くのではなく、重みを変えることが大切です。

「○ふゆでーござんす○」この○の部分は右手のメロディーは4分音符です。この部分の左手はしっかりと弾いて、歌が入りやすい状況を作りましよう。そうすることで、最後の寒太郎の言葉が生きてくるでしょう。

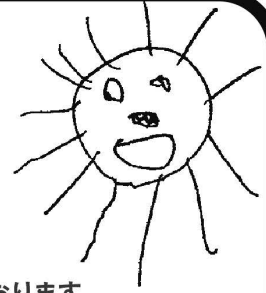
筆者プロフィール 佐藤ユカリ

武蔵野音楽大学声楽学科卒業。オペラ「ラ・ファヴェオリータ」「修道女アンジェリカ」「魔笛」に出演。東京板橋の音楽団体『ゲルツポミノリート』に所属し、コンサート活動を行う。深谷カルチャー教室音楽講師。深谷市音楽連絡協議会会員。元、中学校音楽教師。



事務局
(一社)埼玉県私立保育園連盟
〒363-0015 桶川市南2-7-13
桶川中央マンション2F
TEL 048(772)8623
FAX 048(772)8635

園および園児をさまざまな リスクからサポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
公益社団法人全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険）」
「特別保育事業賠償責任保険」など、
園経営におけるリスクに関する保険をラインナップ
しています。また、それらを総合的に補償する
セットプランもご用意しております。

やくいんのほけん

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクを補償します。



上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

（引受保険会社）東京海上日動火災保険株式会社 担当課：公務第二部 文教公務室 TEL:03-3515-4134

連絡先



公益社団法人全国私立保育園連盟指定 / 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育園連盟推奨（総代理店）

導入費用
無料

きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは
伝えきれない園での豊かな活動、
子どもたちが自ら学び・育つ姿を
「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大 9 カ月

利用料無料！

契約更新後も料金そのまま！

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格に
なりました！

ひと月
あたり **5,000** 円
(税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金に変更になる可能性があります。

詳しくはお問い合わせください。

<担当者:菅沼、太田>